

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300191		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし のぞみ		
所在地	愛知県名古屋市守山区竜泉寺二丁目1139番地		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成26年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は小幡緑地公園の一角に位置し、自然が豊かで静かな過ごしやすい環境にあり、四季折々に季節の移り変わりを感じる事が出来るのが特徴です。旧施設は民家改造型(増築時にリフォームと防火防災に備えた設備も完備されました)加えて新築の2ユニットです。豊かな自然を生かし出来るだけ外で過ごす時間を作り自然を肌で感じていただける工夫をしています。天気の良い日の10時15時にはグランドでお茶会、又畑作り収穫物を生かした食事会(冬瓜汁)約10年間、恒例行事になりつつある流しそうめん等々とにかく外に出る事を、自然を肌で感じる事を大事に考えた企画を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の高台に立地し、小幡緑地公園がすぐそばにある。利用者は日光浴や散歩、法人施設合同でのバーベキュー、野菜作りと戸外で過ごす機会が多くとられ、穏やかに暮らしている。手を出し過ぎず、ごく普通の自由を尊重した生活が継続できるよう職員は、個々に寄り添い、薬やオムツをなるべく使用しない介護に散り組んでいる。常勤者を増やし、顔馴染みの中で生活することと協力医の週1回の往診と訪問看護の連携体制が整備されており、精神面と健康・安全面の双方の安心感が確保されている。利用者の個性や趣味を生かし「その人にとっての幸せとは？」を常に考え、利用者・介護者の信頼関係が構築されており、温かい雰囲気を感じられる。事務部門を法人で一括管理する体制を整備し、今までの介護の考え方や方法をもっと地域へ啓蒙し、守山区での介護の拠点となることを目指しており、今後の取り組みが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「やすらぎ」を各スタッフは自分自身に置き換え自分だったらどんなケアをして欲しいかを考え利用者様の気持ちに寄り添ったケアをスタッフ全員参加のカンファレンスで共有しケアに当たっている。	理念はリビングや玄関に掲示され、職員は「やすらぎ」の意味を念頭に置いたケアの実践を心がけている。カンファレンス時にも常に立ち戻る原点と捉え、思いをひとつにして実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの立地条件上地域との付き合いは困難ですが、散歩等での出会いを大切に挨拶・会話を心がけホームへの訪問を働きかけている。	町内会に加入し、年1回の池の掃除に参加し、地域の人との交流に努めている。運営推進会議参加の民生委員は、地域高齢者と密接な関係のため、情報交換と施設理解を働きかけている。いきいき支援センター主催の認知症啓蒙の講習会の講師として職員を派遣している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の専門性を生かし町内会組織を通じて地域に根ざした介護センター(介護について気軽に相談できる場所)としての位置づけていただけるように町内会組織を通じて働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度のペースで利用者ご家族代表、町内会長、民生委員、主治医、いきいき支援センター(年に一度)にご協力いただきホームの活動報告、運営地域への貢献等へのご意見・指導をいただいている。	年6回開催され、ホームの現況、行事や今後の予定、人事等が報告されている。ホーム単独開催と法人合同開催の場合があり、参加者からは質問や要望が出され、協力医からは時節柄、感染症予防の話も聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者はいきいき支援センター主催の認知症専門部会へ参加し守山区における認知症の皆さん家族への援助のあり方等を年間を通して討論運営に参加している。	生活保護等事務手続きで区担当部署へ出向き、多方面での情報交換や連絡を密にとっている。守山区主催の「福祉まつり」には毎年参加し、ホームを理解してもらう機会としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員一同は「身体拘束をしない介護」を事あるごとに確認し合い、又全ての利用者様の安全と穏やかな生活を最優先に身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	職員は定期的カンファレンスで、「もし拘束されたら？」と行為を自分に置き換え、利用者の身になってケアの工夫を話し合っている。自由な暮らしに向け玄関は夜間のみ施錠し、抑制する言葉使いの認識を統一し、回避を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止(言葉によるものも含む)について毎月のカンファレンスの勉強会等で学習・確認している。又、入浴時等に利用者様の体に異変がないか観察しスタッフ間における検証も行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の制度について、在籍している利用者様の後見人様の協力指導で学び、それらを活用援助できる管理者・職員を目指している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず重要事項説明書・契約書の内容を管理者が説明し、本人、家族の不安に対して十分に時間を取り納得いくまで説明し十分な理解の下で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りを年4回家族へ送り近況をお知らせしたり、家族が来訪された際には近況をお話したり又、来訪が難しい家族へは電話にて近況を伝えるなどしている。	ホーム便り送付時に行事予定や利用者個々の近況を書いた手紙を同封している。意見箱の利用はなく、面会時や電話連絡時に、家族の意見や要望、不満に耳を傾け、内容を職員間で共有し、より良いサービスへと繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで短期長期に関わらず行事運営に関する意見やその他意見・要望を聞き、運営に反映出来るよう努めている。	管理者はカンファレンスで職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を聞き取っている。職員は法人内施設の交流や移動で相互に学び、刺激を受けることで介護の統一ややりがいに繋がっている。更に評価制度も実施され、介護の向上へ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月に一度、自己評価・他者評価を実施し、職員個々の能力、将来性を考慮して役職、給与等に反映し、やりがいを持たせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護技術の向上の為、教育係を設け実習、テストを行っている。又、資格取得の推奨、外部の研修に積極的に参加するよう職員に呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はいきいき支援センター主催の認知症専門部会へ参加しホームを地域における介護相談センターへと心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所がきまった時点で本人の思いを聞き取り、安心して共同生活に入れるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に於ける家族の不安や困っている事を聞き取り介護における思いを家族と共有できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に対してどのようなサービスを提供するか、したらいいのかを家族と共に入所前に相談し又職員間でも検討し共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を行うだけの関係でなく、自分も共同生活の一員としての立場に立ち利用者様に寄り添った介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供できるように努めている。又、クリスマス会等のイベントにご家族も参加して頂けるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望に応じて年賀状、日頃のお便りが出来るように支援している。又、買い物に出た時など以前の住み慣れた町へお連れし過去を回想して頂いている。	利用者の馴染みの場所と思われる「名古屋城」や「県庁・市役所」付近をドライブし、懐かしい風景から更なる馴染みの場所の引き出しを試みている。日々の散歩から地藏さんや春日井の植物園はホーム入居後、利用者の馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度が近く性格的に合いそうな事などの考慮し意図的に交流を促進したり、自然な成り行きでの交流を見逃さず、利用者様が孤立することが無いよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても入所先が決まるまで相談に応じたり心当たりのある施設の紹介援助を行いいつでも相談に応じる旨を伝えてある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で個々の希望意向を把握しコミュニケーションが困難な利用者さまに於いては家族からの聞き取りアセスメントを活用し把握に努めている。	職員は、夜勤の勤務の時など利用者とはゆっくり話す機会がある時に、思いや要望を直接聞いている。意思疎通の困難な人には、日ごろの行動や表情で察したり、家族から情報を貰うなどして、把握に努めている。思いや要望は、申し送りノートに記入して情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取りや入所後に本人とのコミュニケーションの中で把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で各利用者さんの現状について話しあったり、申し送りノートを活用したりとスタッフ内での連絡・報告を徹底し、利用者の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでサービス計画の見直し、作成を行う。又、御本人の思いを中心に家族の意見等聞き、本人の現状にあった計画作成に努めている。	申し送りノートや介護記録、6か月毎のモニタリングを基にして、本人や家族、職員の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭や申し送りノート、介護記録等にて情報を共有して常に状態を把握できるようにし、介護計画の改善目標に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者様の現状に合った介護・支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の周りの自然を生かした取り組み、四季を体で感じ取れる気軽な取り組み(公園でお弁当)、散歩・早朝ウォーキング、畑を作って収穫祭等楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは入所時に主治医を当ホーム契約の医師に代わって頂くようお願いしています。現在週一度の往診をしていただき、利用者様の状態変化に直ぐに対応して頂ける。又、専門医の定期的な受診等の援助も行っている。	利用者はホームの協力医の往診を週1回往診をうけている。専門医への受診はホーム協力医の紹介状を貰って職員と受診しており、医療連携は出来ている。常時主治医と連絡が取れるので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の変化を申し送り等で共有し、訪問看護師への相談がいつでも出来る体制を作っており、主治医への受診や看護が適切に受けられる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ホームは医療機関へ安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わして病院関係者から情報もいただき、施設での生活が出来た状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為に入所時に家族・後見人の意見をいただいている。又、ホームで出来る事・出来ない事を十分に説明し理解していただいている。状態に変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、医療機関との連携の下、援助に取り組んでいる。	重度化に向かっても、医療行為が必要な場合は、ホームで出来る最善策を、家族や医師、職員と話し合い支援をおこなっており、今年度は1名がホームで終末期をむかえている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変又は災害時を想定し救急救命訓練や応急手当事故発生への対応訓練等を消防機関へ依頼することを定期的に計画し実践力を身に付けれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災地震に備える為に自主防火防災計画書を作成し町内会組織にも組み込んでいただけのように申し入れを行っている。又、職員全員を対象に施設独自で炊き出し・防火防災訓練等も行っている。	9月と12月に避難訓練を行っている。12月には18時頃から夜間想定避難訓練を利用者と一緒に行い、避難経路の確認もしている。職員会議の中で時折、通報設備の使用方法的説明を行い、全職員が周知できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の人格を尊重する介護と利用者様の状態に応じ安全とプライバシーを守ることを介護職員共通の課題としカンファレンス等でも問題を共有しプライバシーを守り人格を尊重する対応をしている。	利用者と会話をする中で、相手の話をじっくりと聞き、人格を尊重した態度を取るよう努めており、言葉づかいも丁寧である。書類面は事務所に保管してあり、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思い・希望を出していただける雰囲気作りを努め、声掛けする中でもアンテナを広げ自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がどのように生活したいかを介護の中心に置き、介護者側の都合を優先させないようにして利用者様のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめる雰囲気作りとして、献立への要望を聞き、職員と一緒に食事作り・後片付けや食事をする場所等も考慮し食事を楽しんでいただいている。	職員は利用者の食べたいものを聞いて、献立を決めている。ホットケーキやおはぎなどおやつ作りも一緒に楽しむこともある。また、ユニット毎で外出に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分摂取量に気を付けた支援を一日の流れの中で習慣として組み込み、その都度気配りして一人ひとりへの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々の状態・自立度に合わせたケアをしていただく又は援助している。状態に応じて契約訪問歯科医療機関に出張診療、口腔ケア指導をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立への向上心を大切に各々の力量に合った支援を心がけ、排泄パターンを観察し誘導を行い失敗を少なく出来るようにしている。自立への援助から全介助の方へ出来るだけ残存機能を生かした援助に努めている。	オムツゼロ(0)運動を心がけており、利用者の排泄パターンを把握してトイレに誘導したり、食事後、外出する前、就寝前などにもトイレに誘導する時もあり、自立に向けて支援している。夜間は定期的に声をかけて、ポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、ラジオ体操や散歩等出来るだけ体を動かしていただけるよう働きかけ下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に潜む危険を回避するため、介護職員配置の充実した時間帯を入浴時間としているが、自立度の高い利用者様どうしても洗浄の必要な利用者様については適宜入浴を支援している。	入浴は毎日13時頃からとなっており、利用者は週2～3回は入浴をしている。入浴を拒む利用者も職員の声かけでスムーズに入浴している。ゆず湯、しょうぶ湯など季節を感じて、楽しんでもらう配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の不安解消に心掛け、自立度に合わせて日常生活の中で、出来るだけ体を動かしていただき安定した睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方されている薬の目的・副作用を充分理解し、確実な服薬を援助し症状の変化に注意し健康維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自立度に合わせた役割を持っていただき、又、各々の趣味や楽しみを把握し張り合いのある日常生活が送れるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出の支援として、食材の買い出し、買い物等、職員が外出する時は出来るだけ同行していただき社会参加していただくと同時に気分転換に役立っている。その他、ミニドライブ、公園での散歩等を意識的に取り組んでいる。	近隣の公園に散歩やホーム裏にある畑仕事をするなど、戸外にでる機会は良くある。他に同法人合同で1泊旅行や、日帰り温泉、クリスマス会など、楽しむ行事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的には金銭の個人所持は控えていただいている。少額の所持でご本人の安心につながると云う事であればご家族様と相談の上所持していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切なお友達への手紙・電話のやり取りについては相手の方の了承を得て援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は出来るだけ混乱が生じないように大きくわかりやすい表示をしたり利用目的がはっきりとわかるような配置に工夫している。	リビングは、利用者の笑顔が多い行事の写真や習字、ぬり絵など作品が掲示されており、それを見ながら利用者同士で、会話しており、居心地の良さが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの所で過ごしていただけるようホールを工夫して可能な限り心地よい生活空間作りに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具小物を持ち込む事で安心し落ち着いた生活が出来るを家族にも伝え、入所時に持ち込んでいただくことにより、混乱を減らし、居心地良い空間作りに努めている。	居室はスッキリとしていたが、家族の写真、ホームで作った作品や習字など飾っており、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に合わせ使いやすい工夫をし安全で自立した生活が可能な空間作りに努めている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371300191
事業所名	グループホームみおつくし

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	町内会に加入し、池の清掃活動に参加したり、日常的に散歩時には、笑顔で挨拶を交わし、交流を図っている。今年度は希望がなかったが、実習生の受け入れも行っている。社会福祉協議会が実施する区の「福祉まつり」に毎年参加し、利用者は衣装づくりから職員と話し合い、得意分野を活かして歌や踊りを発表し、楽しい時間を過ごしており、同時にグループホームを知り、理解してもらうよう努めている。管理者はいきいき支援センターが開催するキャラバンメイトの講習会の講師を務めたり、認知症介護における保健所の講習会では講師やスタッフとして参加している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み	評価
	運営推進会議は、年6回町内会長、民生委員、家族、時に主治医、年1回いきいき支援センター職員、ホーム関係者が出席して、ホーム単開催の時と法人合同開催の時がある。毎回現況報告や行事計画や報告を行っている。その他、法人人事異動、質問や要望が出され、「利用者を家族のように支援してくれることに家族は感謝している。」といった嬉しい報告もされており、介護方法が家族に受け入れられていることが伺える。また、法人の方針や年数回合同で開催することも了承され、活発に意見交換が行われている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	生活保護受給者の件でホームへの訪問があったり、区の担当部署へ出向いている。電話やFAXで行うよりも、細目に足を運び、情報交換や相談をしている。市や区に相談して解決したような困難事例はなく、無料で使用できる体育館を教えてもらい、運動会を兼ねたクリスマス会開催が実現した。市やグループホーム協会が開催する研修には積極的に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	玄関には意見箱が設置されている。訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、面会時、行事参加時、運営推進会議開催時には近況報告をし、意見、要望、苦情等の吸収に努めている。家族会はないが、訪問時に交流が図られることもあり、出された意見等は改善に向け、話し合いが行われている。行事や日常の様子が見える写真入りの事業所だよりが発行されている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。